◆「健やかな暮らしが広がる住みよいまち」の紹介

名張地区では、建物と建物の間の路地空間を“ひやわい”とよびます。

庇と庇の間の空間の“ひあわい(庇間)”が語源と考えられます。

昔の名張絵図では、現在の鍛冶町と上本町をつなぐ路地空間として“うら町”と表現されている部分や、寺町の寺院群への路地空間がこれにあたると考えられます。

また、初瀬街道沿いに建ち並ぶ商家の表から裏に抜ける“ひやわい”も多く存在し、当時は防火のための緩衝帯としての機能も果たしていたものと考えられます。

現在はこの“ひやわい”に対して開口部を設けた建物が大半を占め、その機能も失われているようですが、まちなかの様々なまちづくり資源を迷路のようにつなぐこれらの“ひやわい”は、まちなかの特有の歴史的都市空間であるとともに、歩いて安全な散策路としての活用も期待されています。

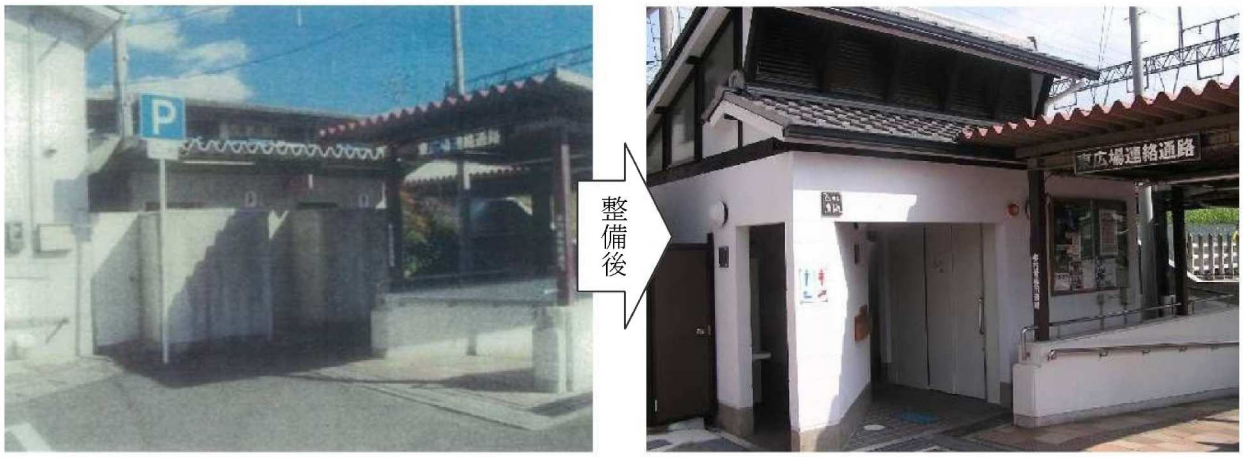
●まちなかの代表的なひやわい

名張川沿いには、舗装された美しい道路や散策道、エコロードなどがみられます。

●リバーサイド

「健やかな暮らしが広がる住みよいまち」につながる取組

◆名張駅西口公衆トイレ整備 （平成17年度実施）



◆旧細川邸やなせ宿　ポケットパーク（平成19年度実施）

◆乱歩生誕地碑広場整備（平成20年度実施）